

第4回ひまわりの里基本計画策定委員会

日時:令和元年10月22日(火・祝日)16:30~18:30

場所:北竜町公民 2階大ホール(まちづくり講演会に引き続き開催)

出席者 別紙名簿のとおり委員24名、事務局5名、傍聴22名

1 開 会 事務局 役場産業課 吉田係長進行

2 挨拶 佐野町長あいさつ

4 議 題 進行~鈴木委員長

※限委員の離町の関係で、議題から先に協議する。

(1) ひまわりの里整備計画について、限委員より別紙資料に基づきプレゼン。

【澤田(正)委員】

・前回の案より大きな変更があった。新観光センターの建設位置により、遊覧車「ひまわり号」の運航するスペースはどうか?

【限委員】

・現状のまま運航できるスペースは確保している。

【沖野委員】

・新しい観光センターの規模と座席数は?

【田口委員】

・現在と同じ300席を確保。建物の面積も今と同じくらいの面積で計画。スポーツ施設としては使用しないので、景観に配慮し、建物の高さを抑え低く設計。町民が使用できるイベント広場としてのスペースも確保。

【田中委員】

・素晴らしい展望台だと思う。雪対策は?どれぐらいの積雪に耐えられるのか?

【限委員】

・今回提案するのはあくまでもイメージ図として。構造設計はこれから。

【鈴木委員長】

・ひまわりの里のシンボルとなる絵を書いていたいただき提案していただいた。

【沖野委員】

・建物、ガラス張りとのことだが、食べ物屋が多い。日光や、暑さ対策は?

【限委員】

・ひさしを深くする、またガラスの素材で対応したい。せっかくいい森があるので、そちらを壁で閉ざしてしまうのはもったいない。

【田口委員】

・ひさしを長くすることで日照を和らげる。

【藤田(真)委員】

・食べ物屋が多いので配慮してほしい。建物の右側の部分は?全部ガラスはちょっと厳しい。

【限委員】

・オープンにする予定。

【藤田(真)委員】

・ブースが分断されているが?

【鈴木委員長】

・どこにどの店が入るかは、地元の協議になると思う。

【竹林(由)委員】

・ブースとブースの間はどうなる？

【隈委員】

・間仕切りで対応。

【鈴木委員長】

・細かい部分は実施設計で検討していく。

【田中委員】

・展望台は上に上がるのはエレベーターのみか？電気代は？

【隈委員】

・らせん階段風の設計。エレベーターも省エネタイプのもがある。

【鈴木委員長】

・ノノの森からサブグラウンドにかけて芝生にし、通年使えるようにしたい。その中でシンボリックな展望台となる。

【梅原委員】

・エレベーターからひまわりは見えるのか？

【隈委員】

・木の隙間からひまわりが見える設計。

【梅原委員】

・エレベーターなど、障がい者や高齢者対策がデザインを壊してしまうことが多いが、この展望台はデザインを壊さない。木組みのシンボリックタワー。隈設計の真骨頂。カラマツ材を使うことになるだろう。

【鈴木委員長】

・ひまわり以外にも展望台が名所・名物として世界に発信できる。

【谷垣委員】

・新しい観光センターは畑を囲んだ施設で、イメージがわき、いいスペースになると思う。トレーラーハウスもいい一服どころになるのではないかな。今の観光センターをスポーツ施設に特化させるところはなるほどの一言。

【石川委員】

・これまで皆さんから出た意見がうまく取り入れられていると思う。一体感のある里となり、滞在時間が長く、お金を落とすと思う。額縁効果の意図は？

【隈委員】

・囲われ感を狙っている。

【藤田（真）委員】

・観光地はトイレが大切。トイレのことも願います。

【隈委員】

・もちろんトイレについても対応する。

【竹林（由）委員】

・「こうあってほしい」「作ってほしい」といった今までの意見要望がすべて込められている。お金の話は議会が決めることである。

【佐光委員】

・北竜が今後生き残っていくためには、観光振興は非常に重要である。財源についても考えていく。次世代のために町を無くさないようにするために。

【藤井委員】

・素晴らしい展望台、高さもあっていいと思う。このような素晴らしい展望台ができるのであれば、畑をもっと素晴らしいモノにしていけないと。新しい観光センターの場所は人の流れが作りやすいと思う。

【北島委員】

・議員の立場として、今後町民に説明していく必要がある。予算についても判断していく。

【高橋委員】

・今まで出た案をすべて取り入れてもらった。素晴らしい提案だと思う。ふるさと納税も増えているが、知名度が上がってきているからだと思う。迷路の利用者も増えたが、梅原委員のデザインや、隈委員の展望台の補修のおかげだと思っている。シンボリックな展望台を作り、さらに知名度を上げ、お米の知名度アップの相乗効果を計りたい。

【高田委員】

・素晴らしい提案だと思う。

【竹林(玲)委員】

・意見を集約していただいた。実現が楽しみ。注目の的となる。飲食のレベルアップを図らねばならない。よそから人を呼び込み活性化を図る。

【澤田(貴)委員】

・新しい観光センターの場所は意外だった。素人では考えつかない。

【小野委員】

・素晴らしいデザインだと思う。是非実現してほしい。

【鈴木委員長】

・この方向性で進めていきたいと思う。

【高畑委員】

・バックヤードの対応と、搬入経路の検討もしなければならない。

【鈴木委員長】

・細かい点は実施設計で。基本はこの方向性で進めていく。

※離町の関係で隈委員退席。

3 報告

(1) おむすびコンテストの取り組みについて【谷垣委員】

- ①おむすびコンテストのレシピを販売したところ、1000人分の販売実績。担当も驚いている。レシピを町にお返しするので、町の宝として活用してほしい。
- ②大学で北竜町のお米・観光に関して課題解決を目指すビジネスプランをレポートしてもらうこととした。興味を持ってもらい、インターンや地域おこし協力隊員等転入者増につながれば良いと考えている。
- ③枯れたひまわりを活用してはどうか？(エゴンシーレの絵画) 枯れたひまわり畑を絵に描いてもらうとか。

【高畑委員】

・レストランで提供したいと考えているが、いかんせん人手不足の状況。宴会で提供することも考えているが、食の細い高齢者の客が多い。

【鈴木委員長】

・観光センターでPRしてはどうか？

【吉田係長】

・コンテスト、反響大きかった。町として活用しない手は無いと考えている。コンビニへのメニュー提案とかはどうなのか

【谷垣委員】

・手作りでないダメなのでコンビニは難しい。

【下浦主事】

- ・中学生、アイデアがあふれているのを感じた。来月大阪で町の紹介をするが、学生にリアルな状況を伝えたい。

(2) 北竜町での新しいビジネスモデルについて【石川委員】

別紙ビジネスモデルの資料について説明。

【鈴木委員長】

- ・奈義町の「仕事コンビニ」の事例。そういったものを移住につなげていく。通年雇用できる仕事を増やすことが大事である。企業や新しいビジネスについて、石川委員に相談可能。活用を。

(3) ひまわりまつりのアンケート結果について【道総研・佐々木氏】

アンケートの分析完全版について別紙の通り説明。アンケートは継続して行うことが大切。

【鈴木委員長】

- ・本アンケートは、今後ひまわりの里のベースのアンケートになっていくと思う。

【梅原委員】

- ・今回、300g米袋を制作した。北海道、農業賞大賞受賞（きばらない）、低農薬等町長が名刺代わりに持って行きやすい、PRがすべて詰まっている。お土産が無いと言うが、是非活用してほしい。

【鈴木委員長】

- ・アンケート結果によると、お米のイメージがあまりない。隣の深川市でもお米を推している。お米や黒千石大豆、もっともっとPRすべき。他ソフト面について何か意見があれば発言を。

【竹林（由）委員】

- ・今年のみまわりまつりで、たい焼きおにぎり1300個販売することができた。今後、ひまわりライスを安く提供してもらい白飯おにぎりを考えている。農家の立場として、300gのお米誰が買うか疑問だったが、お土産として人気があることがわかった。

【鈴木委員長】

- ・2合のお米はどこでも人気である。深川でも売っていた。お土産の開発は必要である。

【竹林（玲）委員】

- ・深川はお土産が豊富。果物など活用してまちで盛り上げている。町として開発する必要がある。お土産は選べる楽しさが大切。

【澤田（貴）委員】

- ・町民でも優れた能力、才能を持つ人が多い。人材の活用が必要。

【高橋委員】

- ・過去に人材バンク制度、登録があったが廃れてしまった。もう一度人材の掘り起こしを行い、紹介・グループ化につなげる。ひまわり油の教室。

【澤田（貴）委員】

- ・町に頼まれてメニュー開発など協力するがぱっとしない。また、忙しい時期に頼まれたりすることがある。冬期間とか時期も考えてほしい。

【田中委員】

- ・お土産として鳩サブレをもらったことがあるが、個包装で配りやすく、どこのお土産か一目瞭然。そこで「ひまわりサブレ」を開発してはどうか？個包装で。

【竹林（玲）委員】

- ・特産品開発の町の助成もあるようだが、町が音頭をとってみんなで開発する必要あり。個人では需要がわからない。個人任せではダメ。一斉に開発することが必要。

【梅原委員】

- ・ひまわりサブレはいいと思う。牛乳・バター・原材料も北海道のイメージ。ひまわりならシンボルとして可。小さい町だからできると思わないと。海士町では「島じゃ常識サザエカレー」を販売。ネーミングセンス。Iターン者が増加している。「ないものはない」という考え。何か意思を持ってつくろう。ひまわりサブレは十分プロジェクトとして可。

【鈴木委員長】

- ・今後足りないもの、要望・意見等あれば事務局まで提出を。